

目白学園 広報誌

学校法人 目白学園

目白大学大学院

目白大学

目白大学短期大学部

目白学園中学校・高等学校

# 桐kiri

目白の森から風便り

第8号

通算106号

2006.11

Special issue

## 2007年4月より新宿キャンパスに 人間学部子ども学科が誕生!

子ども学科長 松矢勝宏教授にインタビュー

クラス担任制度

入学直後の「居場所」であり、  
勉学、生活、進路などの  
相談窓口としても機能



目白探訪  
岩槻キャンパス5号館  
学園インフォメーション  
輝く目白の星

## ライバルへの挑戦で記録を伸ばし 北京パラリンピック出場も狙ってます

水泳選手  
外国語学部アジア語学科中国語専攻1年 坂本 広さん

人間学部  
子ども学科

2007年4月より新宿キャンパスに  
人間学部子ども学科が誕生!

# 「教育」と「福祉」の融合により 高度な子どもの専門家を育成し 新しい「子育て文化」を創造する

来春、目白大学人間社会学部は、人に対する支援（ヒューマンサービス）を軸とする人間学部と、社会とのコミュニケーションを軸に現代社会を考える社会学部とに分割再編されます。

それに伴い、短期大学部子ども学科が「人間学部子ども学科」として生まれ変わります。

4年制への移行により教育内容がどのように充実していくのか、

学科長に就任予定の松矢勝宏教授に伺いました。

少子高齢社会の中で  
保育と教育の融合がさらに進む

——子どもをめぐる社会状況について、  
どのようにお考えになっていますか。

**松矢** 現在、子どもを生み、育てるのは大変だという意識が強くなっているように感じます。男女共同参画社会の実現が望まれる中、働きながら子どもを育てることが求められているにもかかわらず、女性の育児の負担は減らず、保育所も足りない状況が続いています。また、少子高齢社会では子ども1人に対する教育費が増

大するのではないかと不安も高まっています。だからこそ、女性が安心して子どもを生み、育てられるような「子育て文化」を作り出す必要があるのです。

——子育て文化の創出のためには、どんなことが必要なのでしょう。

**松矢** 子育てには様々な局面がありますが、大きいのは教育と福祉の領域でしょう。幼稚園教育などに代表される就学前教育は教育の領域であり、保育活動は子どもの健やかな成長を促す福祉の領域ですが、子育てにはこの教育と福祉の視点が欠かせないのです。折しも今年（平成18年）10月から、幼稚園と保育所の双方の機能を併せ持つ総合施設「認定こども園」がスタートしましたが、今後は、子育てに関して教育も保育も十全にできる専門家が求められるようになっていくと思われます。

目白大学では短大に子ども学科を設置した当初から、教育と福祉の融合を謳

ってきましたが、大学の学科へと発展改組することにより、その融合をさらに前進させていくつもりです。短大時代も保育士免許と幼稚園教諭二種免許が取得できましたが、4年制への移行後は、保育士免許に加え、幼稚園教諭一種免許や社会福祉士の国家試験受験資格取得も可能にし、教育と福祉に関する深い知識を備えた専門家を育成していきます。

発達障害に関する  
講義・臨床が充実

——新しい子ども学科では、カリキュラムにどんな特色があるのでしょうか。

**松矢** 最大の特色は、すべての子どもに対する支援ができる専門家の育成を目指した点です。国連の「障害者の権利条約草案」では、障害のあるなしにかかわらず一緒に教育を受けることのできる「インクルーシブ教育」が打ち出されています



子ども学科長  
松矢 勝宏教授

**Profile**  
東京学芸大学教育学部教授を経て、現在は目白大学人間社会学部人間福祉学科教授。専門領域は障害福祉学、障害教育学。平成19年4月、人間学部子ども学科長に就任予定。



し、幼稚園や保育所では障害のある子どもとの統合保育が進められています。

本学科では、とくに「学習障害(LD)」「注意欠陥多動性障害(ADHD)」「高機能自閉症」など軽度の発達障害を持った子どもたちに対する支援に関する科目に力を入れています。文部科学省の調査では、それらの発達障害を持った小学校・中学校の児童生徒が6.3%いることから、就学前についても潜在的に同数の幼児がいることが推定されます。

そこで、社会福祉や、保育、教育に関する科目以外に、発達・福祉支援に関する科目を設定しています。たとえば2～3年次にかけて「発達支援1・2・3」を必修科目とし、3～4年次には発達障害を持つ子どもたちの臨床現場に出かけて、その支援のあり方を考える実習科目「発達障害臨床1・2」を開設します。そのため、発達障害に関わる教育研究スタッフも拡充させています。

——学生はどんな学び方をして、どんな

将来像を描けるのでしょうか。

**松矢** すべての子どもの支援ができる専門家育成という観点から、保育士免許と幼稚園教諭一種免許の取得を目指すか、保育士免許と社会福祉士国家試験受験資格の取得を目指してほしいと考えています。とくに後者の場合、卒業後の進路として、子育て支援センターや児童相談所等の機関における専門職員やソーシャルワーカーなどが想定されるため、公務員試験にも挑戦して、児童福祉のスペシャリストとして活躍してほしいと思います。

大学院も同時にスタートさせ  
現場と結びついた刺激的な環境に

——4年制に移行することで、教育のあり方は大きく変化するのでしょうか。

**松矢** 修業年限が4年間になるということ以上に様々な広がり生まれます。人間学部には子ども学科以外に、心理カウンセリング学科と人間福祉学科が設置さ

れます。これらの学科との間で相互に授業を受講することによって、カウンセリングマインドや具体的な社会福祉援助技術を身につけることができます。また、心理や福祉の専門教員や学生とかがかわることで、幼保育を学ぶうえで得られるものも多いはずで

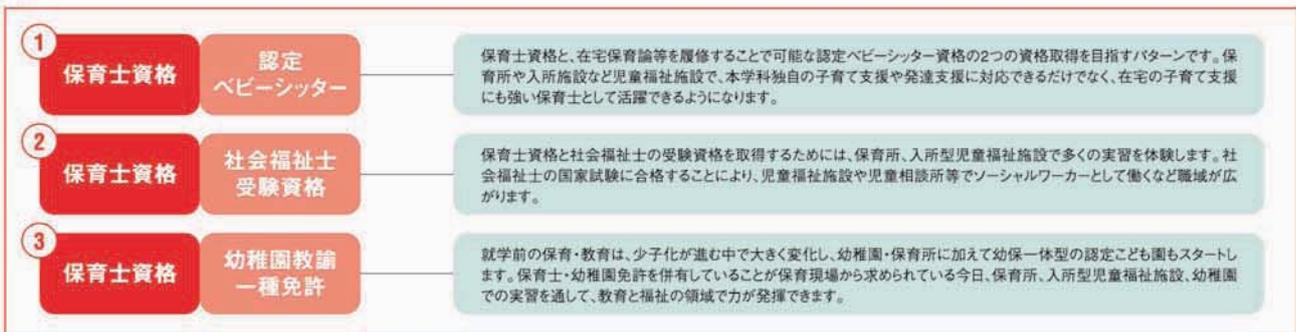
また、子ども学科の設置と同時に、大学院生涯福祉研究科生涯福祉専攻(仮称・設置認可申請中)の設置も計画しています。



乳幼児から高齢者までの各年齢期のライフステージを考えた、生涯にわたる福祉サービスのあり方を追求するもので、子どもの場合は教育と福祉を一体化させ、高齢者の場合は介護まで視野に入れた教育研究を展開していく予定です。社会福祉学修士と保育学修士のいずれかを取得できる構想で申請中です。

昼夜開講制ですから、現職者も入学するでしょうし、そうなれば学部学生と交流する機会も増え、子ども学科は現場とも結びついた刺激の多い学びの場になっていくはずで

●子ども学科の履修パターン 本学科では複数の資格が取得できます。



## クラス担任制度

# 入学直後の「居場所」であり、 勉学、生活、進路などの 相談窓口としても機能

「育てて送り出す」を教育理念とする目白大学では、  
学生と大学をより密接に結びつけるシステムの1つとして、  
クラス制度を設けています。  
1～2年次は授業を履修する単位としても機能しますが、  
そこで初めて出会う仲間たち、担任教員との交流などを通して、  
大学生生活のあらゆる場面へと活動を広げていく場にもなっています。



### 新しい大学づくりに向けた 学生・教員の交流促進が出发点

クラス制度のある大学はたくさんありますが、教養科目や語学科目などの授業を受ける区分でしかない場合もあります。しかし、目白大学のクラス制度は、大学における学生の生活全般にもっと深く関わる制度になっています。平成6年の大学開学当初、1学部2学科、300人という小さな規模でスタートしたことから、学生同士、学生と教職員などの交流をできるだけ深め、一丸となって新しい大学づくりに取り組んでいく必要がありました。クラス制度はその基本的な単位として考えられたのです。

クラスは、学科ごとに設定されます。1クラスは40人前後の学生で編成され、各クラスごとに専任教員が担任として置かれます。また、クラス単位で行われる授業があるため、クラスのメンバーと交流する機

会もたくさんあります。

この仕組みは、とくに1～2年次の学生に対する教育上のメリットが大きく、現在では、短期大学部も含めて全学でクラス制度が導入されています。

### 学生の「居場所」の1つであり 大学入門の役割も担う

入学してすぐに実施されるオリエンテーションはクラス単位で行われるため、学生にとってクラスは、入学後初めてのコミュニケーションの場です。知り合いが誰もいない中で大学生生活をスタートさせるわ



けですから、クラスは大学における1つの「居場所」ともいえます。実際、スポーツフェスティバルなどへの参加状況を見てみると、1～2年次の学生は、クラスの仲間を中心に参加しているケースがかなり多く見られます。それだけ、クラスが学生同士の親密な交流に役立っているわけです。

また、クラスでは、担任を通して大学における学び方や大学の活用の仕方などに触れ、学習や研究などのあらゆる大学の機能になじんでいくことになります。つまりクラスは、大学への入門という役割も果たしているのです。たとえば、新宿キャンパスで実施されている1・2年次必修の「キャリアデザイン」は、クラス単位で開設されています。1年次はとくに大学入門の意味合いが強い内容となっています。

キャリアデザインでは、クラス担任が授業を担当することも多く、一般の教養科目のように厳密な教養内容を教えるというよりは、そのときのクラスのメンバーに応じて

授業内容を工夫していくような性質があります。それだけに、学生同士、学生と教員の距離が近く、クラスが生き生きと機能しています。

学生が最初にアクセスする  
相談窓口として

目白大学のクラス制度では、クラス担任は、学生の学習研究、単位履修に関する内容はもちろん、学生生活上の問題や、将来の進路に関しても指導・助言を行うことになっています。クラス担任のもとには、指導上必要な学生の個人記録が保管され、キャリアデザインなどで行った個人面談の記録なども含めて、学生の指導に活用されています。

学生から相談を受けると、クラス担任は必要に応じて保健室や学生相談室、学生課などに連絡し、連携を取りながらその学生をサポートしていくことになります。また、ほかの相談窓口からの情報も担任にフィードバックされ、指導・助言に活かす体制も整っています。

その意味で、クラス担任は、大学生活に関する最初のサポート相談窓口として機能する役割を担っているといえます。本学では全教員が、毎週決まった曜日と時間に研究室を学生に開放するオフィスアワーを設定しており、クラスの授業がない場合でも、担任の研究室を訪れて相談できる環境が整えられています。

本学は現在、人文社会系から保健医療系までの学科を擁する総合大学へと

躍進しつつあります。それに伴い、学生数も必然的に増加の一途をたどっていますが、それだけに、学生一人ひとりに対するサポートは一層きめ細やかなものである必要があります。本学のクラス制度はその象徴であり、「育てて送り出す」を教育理念とする本学ならではのシステムといえるでしょう。



Teacher's  
Voice



心理カウンセリング学科  
1年D組 担任

奈良 雅之 先生

目白大学のクラス制度は単なる担任制度とは異なり、キャリアデザインⅠ～Ⅳの科目担当者として入学当初から学生と接することで、教育課程における初年次教育の中核を担う位置づけになっています。具体的には、生活指導・履修指導のみでなく、学びの動機づけ、学習技法の指導などを一貫して実施するための体制を支える基礎ともなっていることです。学内行事についてはクラス単位で参加するので、実行委員など役割分担を決めて会合を開いたりなど、入学直後から学生たちは自主的に活動しています。

定期面談で話をするのは、体調管理を含め日常生活の基本的なことから大学への適応状況、友人関係の問題まで。学生の自主性を尊重しつつ、その上で必要なバックアップができるように心がけています。

このように、担任として一人ひとりの学生生活を多角的にサポートしていくことで、学生たちの学ぶ姿勢や自主性の成長につながっているように感じます。

Student's  
Voice



心理カウンセリング学科  
1年D組

湯澤 彩 さん

私は女子高校出身ということもあり、男子学生とのコミュニケーションに不安がありました。クラス制度のおかげで友人もたくさんできました。大学選びの際に、共学か女子大か悩んでいたのですが、心理学を学ぶ以上、様々な人と交流しなければと思い、クラス制のある目白大学を選んだのです。

クラスでは、桐和祭で出店する模擬店について打合せをしたり、食事会を開いたり。同じクラスの仲間も積極的に参加しています。

担任の先生が私たちの相談に、親身に應對してくださるのも安心です。勉強のこと、部活のことなど大学内での相談だけでなく、日常生活における健康管理のあり方から友人関係の問題まで何でも悩みを聞いてくださいます。

クラス制度は、他大学の友人にも羨ましがられますね。クラスがないと同年代で自分と似たようなタイプの人と付き合いがちですが、ここではいろんなタイプの人、社会人、留学生とも交流ができ、本当に良いシステムだと思います。

# 目白探訪

## 第7回 岩槻キャンパス 5号館



ゆったりとした敷地の中に今年3月に完成した5号館は、  
 岩槻キャンパス2番目の実習棟です。  
 4階建てのその棟は、3号館をひとまわり大きくした外観で、  
 言語聴覚学科や看護学科の実習施設と  
 研究室が入っています。  
 ウッド調の床やカーペット敷きの  
 落ち着いた雰囲気建物に、  
 最新の機材が多数設置されています。  
 病院そっくりな施設や  
 生体シミュレーターなどで  
 最先端の医療技術を学ぶことができます。



### エレベーター

患者が寝ているベッドを運搬できるように造られた、24人乗りの特注エレベーターです。通常より奥行きが広く、医療関係施設ならではの特徴的なエレベーターといえるでしょう。



### 小児訓練室

小児を対象とした訓練室です。子どもが興味を持って学習できるように工夫された教材が設置されています。天井の一隅に取り付けられたカメラやマジックミラーによって、子どもの様子を別室から観察することができます。



### 音響室

天井や壁に防音のための加工を施した特別な部屋です。分厚い扉を閉めると室外の音が遮断されるので、防音室体験や、最新の機器を使って音声の音響分析などの演習を行うことができます。



### 看護学実習室

看護学の学内実習は、看護目的等に応じて別々の実習室で行います。14床のベッドを持つ基礎看護学実習室の天井にはモニターが設置されていて、室内の後方でも教員の指導内容などがよく分かるようになっています。人体により近い機能を持った特殊な実習用的人形が並ぶのも看護学部ならではの。写真右下はそのうちの一体で、実際の患者のようにリアルに心音をシミュレーションできます。どういわけか、「イチロー」の愛称が付けられています。

## 学園インフォメーション

### 中学校・高校

#### 2006.9.23-24 桐陽祭

9月23日(土)、24日(日)、毎年恒例の文化祭「桐陽祭」が実施された。晴天の下、両日とも大勢の来場者を迎えて大盛況であった。会場では奄美大島出身の方々による



踊りが披露され、さらに地元・御霊神社のお神輿が立ち寄るなど、多くの交流の舞台ともなった。

#### 2006.10.1~4

##### 第61回国民体育大会

10月1日(日)から4日(水)にかけて、兵庫県尼崎市の尼崎スポーツの森で、第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)が開催された。本校からは山崎美里さん(中3)が水泳(競泳)の4種目に出場。高校生を含む全国の強豪選手がひしめく予選を突破し、100m自由形をはじめ出場した全種目で決勝進出を果たした。

#### 2006.10.17~21 高校・修学旅行

高校2年生は10月17日(火)から21日(土)まで、九州へ修学旅行に行ってきた。初日は鹿児島で城山公園や知覧特攻平和会館を見学。2日目は熊本城や阿蘇山、3日目の福岡は柳川や吉野ヶ里遺跡を訪れ、4~5日目の長崎では自主研修と市内観光とい



う日程だった。全日程を通じて天候にも恵まれ、生徒にとって思い深く、充実した旅行であった。

#### 2006.10.20 中学・校外学習

中間テスト終了の翌日、中学校では学年ごとに校外学習を行った。1年生は新宿キャンパス周辺にある落合水再生センターと林芙美子記念館を、2年生は鎌倉で鶴岡八幡宮や建長寺などを見学。3年生は、秩父・長瀬まで化石や地層の学習に出かけ、褶曲や整合といった地層を実際に確認した。いずれも授業で学んだことを実際に見聞する、意義深い一日となった。



### 大学・短大

#### 2006.9 留学生別科の新入生

本学の留学生別科はJapanese and Asian Studies Programの名称のもと、日本語の授業以外はすべて英語で実施される1年間のプログラムである。4年目となる本年9月には9名の新入生を迎え、合計8カ国12名が在籍している。今回はオーストラリア、フランス、イギリス、トルコから初めての留学生を受け入れた。国際交流に関心がある方は、新宿キャンパス1号館1階の国際教育交流センターまで。



#### 2006.10.14~16 のじぎく兵庫大会

10月14日(土)~16日(月)、尼崎スポーツの森(兵庫県)において、第6回のにじぎく

兵庫大会(全国障害者スポーツ大会)が開催された。本大会は毎年、国体終了後にその開催地で行われる障害者スポーツの全国大会。本学から出場した坂本広君(外国語学部アジア語学科1年)が水泳の2種目で優勝、篠原幸乃さん(人間社会学部人間福祉学科2年)も同じく水泳の2種目で準優勝の好成績を取った。(8ページの特集記事もご覧ください)

#### 2006.10.28-29 桐和祭

10月28日(土)、29日(日)の両日、新宿キャンパスの学園祭「桐和祭」が行われた。今年のテーマ「World of Another」とは、非日常の空間、時間を楽しもうという願いを込めた学生の造語。その願いの通り、在学生から卒業生や受験生、さらに近隣住民の方々に至るまで、年に一度のこの非日常空間を満喫した。2日目の午後には、恒例となりつつある御霊神社のお神輿が今年もキャンパス内を威勢よく練り歩き、来場者の歓声と笑顔が絶えなかった。

#### 2006.11.4-5 桐榮祭

11月4日(土)、5日(日)の2日間にわたり、岩槻キャンパスで学園祭「桐榮祭」が開催された。テーマの「We love Mejiro You need Mejiro」には、「絆」や「協調」という意味も込められている。昨年からの医療系学部・学科の新設が続いたことで、車いす講座などの参加型企画(オープンカレッジ)が一層充実。3年生以上の人文学部生と1・2年生の医療系学部生とが見事な融合ぶりを見せた。今年度の岩槻キャンパスならではの華やかなイベントであった。



### 学園トピックス

## オープンキャンパス大盛況!

受験生や保護者の方々をキャンパスに迎えて学内の雰囲気味わってもらうオープンキャンパスが、今年も6月から9月にかけて4回実施されました(12月16日(土)に第5回を実施予定)。あいにく、天候に恵まれない日が多かったのですが、どの日も大勢の受験生や保護者の方々の大変な熱気がキャンパスに溢れていました。

本学のオープンキャンパスの来場者数はここ数年、急激な勢いで増え続けています。今年4回の来場者数はいずれも昨年の同時期開催時のそれを大きく上回り、特に、夏休み中の8月12日(土)に実施された第3回には、新宿キャンパスに2,625人、岩槻キャンパスに1,222人、計3,847人の方が全国から訪れました。



3年前(平成15年8月/新宿・岩槻併せて1,449人)と比べて、実に2.7倍も増加したことになります。

オープンキャンパスは、高校生に大学の生の雰囲気を感じ取ってもらうための非常に重要な機会です。その来場者数の増加は、受験者数・在学生数が年々増え続ける目白大学の着実な発展ぶりを示しているといえるでしょう。



## 学生相談室が開設

新宿キャンパス2号館2階に、今年度から学生相談室が開設されました。従来は心理カウンセリングセンターで行っていた在学生向けの相談業務を独立させたもので、本学の教員を中心とした臨床心理士が相談に応じています。

学生時代のさまざまな悩みは、成長のサインでもあり、自分を見つめなおす重要なきっかけでもあります。学生相談室は、在学生の皆さんが抱える問題や悩みを解決するお手伝いをいたします。もちろん、相談の内容は秘密厳守を義務としているので、相談者のプライバシーは固く守られます。

4月1日の開設以来、多数の学生が面談を受けています。在学生の心のケアを充分に図り、心身ともに健康な学生を「育てて送り出す」ための学生相談室。小さなことでも遠慮せず、お気軽にご利用ください。

(学生相談室ホームページ)

<http://www.mejiro.ac.jp/medai/shinjuku/soudan.html>

## のじぎく兵庫大会で 金メダル2冠に輝く

パラリンピックは障害者のオリンピックとしてよく知られていますが、国体にも同様の競技大会があります。2006年秋には「のじぎく兵庫国体」に続いて第6回全国障害者スポーツ大会「のじぎく兵庫大会」が開催されました。その水泳競技において、50m自由形と、50m背泳ぎで見事2冠に輝いたのが坂本広君です。生まれつき右手が不自由でしたが、持ち前の負けん気と明るさで日本のトップスイマーの仲間入りを果たしています。

水泳を始めたのは、小学校入学前。千葉県から東京都に引越してきたばかりの頃で、両親の薦めでスイミングスクールに入ったのがきっかけでした。週に2~3回、水泳を楽しんでいたといいます。競泳の世界を意識するようになったのは、中学3年生の頃。「ちょうど4泳法をマスターし、100m個人メドレーで自分と同じ年代の人と競うようになって、「コイツよりは速くなりたい」と思うようになったことは覚えています」と坂本君。前後して、競泳選手を育てる「育成コース」に入り、週4日の練習をこなす日々を過ごすようになりました。

## 速い選手に出会ったときの 悔しさをバネにして

自分の力を実感したのは、中学3年で出場した国体のとき。50m自由形で自己最高の31秒台をマークし、初出場で初優勝したのです。「すごうれしかったですね。自分と同じ障害の区分の人が4人出場していましたが、最後の10mのデッドヒートを制しての金メダルでしたから。100mでは同じ人に負けてしまいましたけど…」。

坂本君は、悔しさを力に変えてきました。高校2年のときの国体では、50m自由形で足のない選手と同じレースを泳ぎ、その人の速さに感嘆すると同時に「絶対、この人を抜いてやる」と思ったそうです。



実際、今年のジャパンオープンで見事リベンジを果たしています。

今もライバル視している選手がいます。「彼は、僕と逆で左手がないのですが、アテネ大会に出場したほどの力を持ち、タイムでは50mで2~3秒も差があります。自分と同じ障害なのに、そこまで記録が離れているのは、自分としては納得がいきません。いつか必ず抜きますよ」と闘志満々です。

## 北京、さらにはロンドンを狙う 世界の大舞台で力を試したい

そんな坂本君も、1度だけ水泳をやめたいと思ったことがあります。目白大学の受験準備で半年間水泳から遠ざかったとき、泳ぎたくても泳げない苦しさの中で、「もう泳ぎ続けられないのではないか、こんな中途半端な気持ちでいるよりは、何か別のことを始めた方がいいのではないか」と弱気になったそうです。しかし、晴れて合格し、水泳を続けられる場ができたことで、まさに「水を得た魚」のように、大活躍を続けています。

坂本君は、12月2日~7日に南アフリカ共和国で開催されるIPC(国際パラリンピック組織委員会)主催の世界選手権大会に、日本代表選手として参加します。この大会は、2008年の北京大会への第一ステップ。「もし、北京がだめでも、次のロンドン大会を狙います。とにかく世界の大舞台で力を試してみたいですね」。坂本君の夢は大きく広がっています。

輝く目白の★

ライバルへの挑戦で記録を伸ばし  
北京パラリンピック出場も狙っています

水泳選手  
外国語学部アジア語学科中国語専攻1年  
さかもと ひろし  
坂本 広さん